

令和 5 年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

プロジェクトチーム名	オープンサイエンスプロジェクトチーム																												
サブチーム	広報サブチーム, メタデータサブチーム, データ利活用サブチーム, 岐大サブチーム																												
メンバー	端場純子(主査) 石田綾子 大野尚子 大平司 鬼塚昌枝 我喜屋累 金田志保 小屋敷瑛美 田中幸恵 直江千寿子 林万純 眞野博和 渡邊通江																												
アドバイザー	小嶋悦子課長補佐																												
令和 5 年度の主な取組みと目標	<p>学術データ公開に関する整備を行い, オープンサイエンスを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学術データ基盤整備基本計画の下, 学術データ公開の推進 ● 科研費 DMP 対応検討 ● 研究データのメタデータ検討 ● 岐大におけるオープンアクセスに向けた取り組みの推進 																												
取り組みの概要	<p>昨年度に続き, 4 つのサブチームで活動を行った。</p> <p style="text-align: center;">2023年度の取り組みとサブチーム</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>サブチーム</th> <th>学術データ基盤整備基本計画の下, 学術データ公開の推進</th> <th>科研費DMP対応検討</th> <th>研究データのメタデータ検討</th> <th>岐大におけるオープンアクセスに向けた取り組みの推進</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報</td> <td style="text-align: center;">○ ガイダンス実施・Web サイト更新</td> <td style="text-align: center;">○ 案内・広報</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メタデータ</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○ メタデータ項目検討</td> <td style="text-align: center;">○ メタデータスキーマ 調査, マッピング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>データ利活用</td> <td style="text-align: center;">○ デジタルアーカイブ検 討・学内データ収集</td> <td style="text-align: center;">○ リポジトリ登録</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>岐大</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○ 対応検討</td> <td style="text-align: center;">○ WEKO3メタデータ検 討</td> <td style="text-align: center;">○ WEKO3移行・OA推 進</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 広報サブチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術データ基盤整備基本計画の施策「学術データの公開促進を目的とした大学構成員向けガイダンスを, 2023 年度より定期的 to 実施する」を担当した。ガイダンスは昨年度に前倒しで実施しており, 今年度はガイダンスで質問の多かった「研究データの機関リポジトリ登録手順」の説明動画を作成した。さらに, 2 本目として名古屋大学で 2024 年 1 月から開始された電子ジャーナル転換契約の説明動画を作成した。2 本とも日本語版と英語版の両方を作成し, 名古屋大学オープンサイエンス・オープンアクセス支援サイト(以下, 「OS/OA 支援サイト」。)で学内限定公開した。 ・OS/OA 支援サイトに APC 支援の情報を加えるにあたり, 情報を整理して全体の 				サブチーム	学術データ基盤整備基本計画の下, 学術データ公開の推進	科研費DMP対応検討	研究データのメタデータ検討	岐大におけるオープンアクセスに向けた取り組みの推進	広報	○ ガイダンス実施・Web サイト更新	○ 案内・広報			メタデータ		○ メタデータ項目検討	○ メタデータスキーマ 調査, マッピング		データ利活用	○ デジタルアーカイブ検 討・学内データ収集	○ リポジトリ登録			岐大		○ 対応検討	○ WEKO3メタデータ検 討	○ WEKO3移行・OA推 進
サブチーム	学術データ基盤整備基本計画の下, 学術データ公開の推進	科研費DMP対応検討	研究データのメタデータ検討	岐大におけるオープンアクセスに向けた取り組みの推進																									
広報	○ ガイダンス実施・Web サイト更新	○ 案内・広報																											
メタデータ		○ メタデータ項目検討	○ メタデータスキーマ 調査, マッピング																										
データ利活用	○ デジタルアーカイブ検 討・学内データ収集	○ リポジトリ登録																											
岐大		○ 対応検討	○ WEKO3メタデータ検 討	○ WEKO3移行・OA推 進																									

構成を見直し、「オープンアクセスポリシー」のページを統合した。特に、転換契約の情報が多数記載されている「オープンアクセス出版支援」のページは、利便性向上のためトップページからのリンクとした。なお、状況に応じた柔軟な内容更新ができるよう、この「オープンアクセス出版支援」のページのみ、電子リソースグループの雑誌担当の直接管理とし、問い合わせ先を分けることとした。

- ・その他、名大ポータルへの「オープンサイエンス」メニュー追加や、新しく作られた名大の学術データ管理・公開・利活用ポータルサイトの広報、科研費 DMP 対応として、研究事業課 Web サイトの DMP の項目にリポジトリへのリンクを追加してもらう、などの活動を行った。

名古屋大学附属図書館 オープンサイエンス・オープンアクセス支援

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/index.html>

2) メタデータサブチーム

- ・昨年度の活動のうち、メタデータマッピングについて、今年度は宇宙地球環境研究所 (ISEE) 教員が代表者となり情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 (ROIS-DS) 共同研究に応募し、採択された。宇宙科学分野のメタデータスキーマである SPASE を、日本の機関リポジトリの汎用メタデータスキーマである JPCOAR スキーマに対応・変換し、本学リポジトリへ登録する作業までを昨年度末までに終えており、今年度は本学とは異なるリポジトリシステムを使用している他機関への展開を目指して九州大学へ協力を求めた。九州大学の教員・附属図書館職員とオンライン 2 回、対面 2 回の打ち合わせを行い、九州大学でもリポジトリへ SPASE スキーマから変換した研究データを登録することができた。これらの取り組みについては、IUGONET 研究集会 (2023 年 11 月 9 日開催) と研究データ利活用協議会 (RDUF) シンポジウム (2023 年 12 月 4 日開催) にて発表を行った。

「メタデータ変換と機関リポジトリ登録を通じた研究データの発見可能性の向上について: JPCOAR への SPASE メタデータスキーマのマッピングと他機関への展開」 大平司, 直江千寿子 (以下サイトには題目のみ掲載)

<http://www.iugonet.org/workshop/20231109?lang=ja>

「宇宙科学分野のメタデータスキーマから JPCOAR スキーマへの マッピングー他機関・他分野への展開」 我喜屋 累

(資料) https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/rduf2023_LT_3.pdf

(動画) <https://youtu.be/jnCyjYrFADQ>

・昨年度宇宙地球環境研究所の教員を対象に試行実施した内容を踏襲・一部改良した調査票により、専門分野におけるメタデータスキーマの利用有無を調べるためのアンケート調査を名古屋大学内の17部局に対して行った。調査は年度内において3回に分けて行い、昨年度実施分からの総計で221名から回答を得た。各分野で用いられているメタデータスキーマについて全容を解明できたといえる回答率ではないが、少なくとも10を超えるメタデータスキーマが本学では用いられていることと、本学においても、分野を問わず広く研究データが公開・利用されていることが分かり、分野を超えて研究データを検索・再利用できるようなメタデータ整備の必要性が改めて示唆された。

3) データ利活用サブチーム

・学術データ基盤整備基本計画の施策「学術データ利活用の推進」において、今年度は「デジタルアーカイブのプラットフォームの移行、および、国立国会図書館ジャパンサーチとの連携を2023年度に開始する。」ことが目標であった。昨年度からデジタルユニバーシティ構想のもと、移行先システムの選定等を進めていたが、今年度予算を獲得することができ、「東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ」のプラットフォーム構築に着手した。来年度早期の公開を予定して、現在も作業中である。

・「デジタルアーカイブの活用可能性と求められる機能について」という課題で名古屋大学宇宙地球環境研究所融合研究戦略課題に採択され、2024年2月21日に附属図書館研究開発室の石川准教授、宇宙地球環境研究所の三好教授、菊地特任准教授、データ利活用サブチームメンバーほかプロジェクトチーム有志メンバーにより、機構デジタルアーカイブプラットフォームの有効活用や搭載コンテンツの分野を越えた活用可能性について意見交換を行った。

4) 岐大サブチーム

・昨年度完了した岐阜大学機関リポジトリのシステムの JAIRO Cloud (WEKO2) への移行に引き続き、WEKO3 への移行を完了した。移行に伴い、一時的に停止していた雑誌論文のリポジトリ掲載についても、メタデータを一部見直しのうえ再開し、IRDB へのハーベストも開始した。

・研究成果論文のリポジトリへの掲載フロー検討のため、先行する名古屋大学担当者との意見交換を Teams で行った。

5) その他の活動

・2023年11月21日に、国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業研修会「大学間連携・コミュニティの可能性を考える：最新事例をまじえて」を企画・開催した。

文部科学省の「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業(2022～

2026年度)」(以下、「研究データエコシステム構築事業」。)の一環として2023年12月に発足した「研究データエコシステム東海コンソーシアム」に関連して、大学間連携をテーマにし、全国から102名の参加があった。

国立大学図書館協会地区協会助成事業成果(東海北陸地区)

https://www.janul.jp/ja/regional/tokai/promotion_tokai

今後の展望

- ・学術データ基盤整備基本計画は2023年度までの施策を定めており、図書館が担当とされた施策は概ね達成されているが、一部他システム等との連携が必要な部分で未達成の事項がある。2024年度以降は、これらの未達成事項について、学術データ基盤整備WGの動向を見据えつつ、達成を目指して引き続き検討をすすめるとともに、ガイダンスの実施やメタデータ作成支援など、着手・達成済の施策について、維持・発展させていく。
- ・研究データエコシステム構築事業について、名古屋大学が共同実施機関として主担当となっているルール・ガイドライン整備チームの活動に引き続き協力する。
- ・研究データエコシステム構築事業にかかるユースケース創出課題等において、名古屋大学宇宙地球環境研究所の教員との、メタデータスキーママッピングの他機関への展開や他専門分野への展開可能性を継続する。他専門分野の展開については、学内メタデータスキーマ調査の結果を活用する。
- ・「東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ」について、構築作業を継続する。並行して、運用体制と運用規程類の策定、二次利用ライセンスの検討を行う。
- ・来年度、名古屋大学で新規設置されるデジタル人文社会科学研究推進センターとの連携可能性を検討する。
- ・来年度は、文部科学省補正予算「オープンアクセス加速化事業」の公募が予定されている。これまでのプロジェクトチーム活動から得た知見等を元に、図書館だけではなく、機構全体で協力し、研究成果のオープン化推進に向けたシステム開発や啓発活動に取り組む。